

創世記24章61節 「主に見えるまでの信仰の旅路」

1A イエスを証しされる方

1B 父から遣わされた方

2B 御子にある資産

3B 主への導き

2A 天からの賜物

1B 財産の一部

2B 贖いの保障

3A 愛する方

1B 共にいて助ける方

2B 御霊と教会

4A 信仰の旅路

1B この世における旅人

2B 罪や不信仰の誘惑

3B 希望と励まし

本文

創世記 24 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、22 章まで来ました。午後礼拝で、23-24 章を一節ずつ学びます。今朝は、22 章 61 節をまず読みます。そこから、主の御霊の働きについて知っていきたいと思います。「**リベカとその侍女たちは立ち上がり、らくだに乗って、その人の後について行った。こうして、しもべはリベカを連れ帰った。**」

リベカは、イサクの奥さんになる人です。今、遠い国から、アブラハムのしもべによって、イサクのいるところまで連れていかれるところを読みました。

24 章の話について、それほど知られていないところだと思いますのでご説明します。イサクがすでに成人しており、お嫁さんが必要となりました。彼から出てくる者が、約束の子孫になりますから、お嫁さん探しは一大事業です。彼は、かつて自分の世継ぎになるのでしょうかと主に尋ねるほど、すべての財産の管理を任されていたしもべに、この働きを託します。しかし、非常に厳しい条件を付けます。それは、イサクを連れて行かないということです。しかし、周りのカナン人からは、絶対に妻にはしてはいけないと言いつけます。それで、アブラハムの親戚に、子どもたちがいることを以前、聞いています。彼らは、アラム・ナハライムという、ユーフラテスの上流地域にある地方に住んでいます。かつて、アブラハムの父テラが、その家がそこに定住したハランの町があるところでした。実に、1000 ㌾ぐらいの旅です。けれども、本人イサクがいないのに、どうやって説得できる

のか？というのが問題です。しかし、御使いがついてくるとアブラハムは言って、イサクを連れて行かないことを誓わせました。

それでその地域に来たら、折しも、将来のお嫁さんになるリベカが、しもべがいたところに、井戸から水を汲みに来ていました。しもべは、祈っていたのです。「私に水をくれるだけでなく、らくだにも水を差し上げましょう、という人が、イサクのお嫁さんになるように」と。その祈りを献げているうちに、まだ終わらないのにリベカが来ました。そして、なんと彼女は親戚だったのです。それで、しもべは、事の次第をすべて彼女の家の人に話しました。そして、お嫁さんに出すことを承諾します。そしてなんと、一泊だけして、次の日には連れて行きたいというのです。それで、娘に家族の人たちが聞いたら、行きますと決断します。そこで、旅に出る場面が、今、読んだところです。

突然、来た客がいきなり、自分の生涯の夫になるか問われて、それで家の人たちは承諾し、1000^{キロ}も離れた遠い国に、お嫁さんに行くなど、ちょっと想像を超えてしまいます。リベカの信仰と決断はすごいですが、しかし、この道中、しもべが、たくさんアブラハムのこと、息子イサクのことを話したであろうと想像するに難くありません。

1A イエスを証しされる方

ところで、私たちは前回、22 章で、アブラハムがイサクを全焼のいけにえとして献げるように、主が命じられたことは、ご自身が父なる神として、独り子イエスを世界の罪のためにいけにえに献げられたことを証ししていたとお話しました。ここ 24 章においても、同じような証しが見られます。この、アブラハムのしもべによる、イサクの嫁リベカの引き寄せ、あるいは呼び寄せが、神によって遣わされた聖霊が、キリストの花嫁である教会を励まし、花婿キリストへと導く姿に、重なる部分がたくさんあることです。

アブラハムのしもべが、リベカの家の人々に、熱く、自分の主人と息子のことを語る場面がありますが、イエスが弟子たちに、御霊について語られたことに似ています。「ヨハ 15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証しして下さいます。」主が、よみがえられ、天に昇られてから、御霊が遣わされます。そして、弟子たちに臨まれます。その時には、イエスご自身について証しを行うということなのです。

聖霊が力強く働かれる時、その場には、イエスがおられる！ということが、生々しく分かります。霊的な覚醒が起こっている時に、教会の建物に入ると、立っていられなくなり、ただただ畏れ多くなって、ひれ伏してしまうということも起こります。ただ、私たちはイエスについて語ればよいものではありません。この方が本当に、言われているように生きておられる、ということを証ししないといけないのです。その力は私たちには全くありません、聖霊が行ってくださいます。

1B 父から遣わされた方

アブラハムのしもべは、とても聖霊のお働きに似ています。彼がアブラハムから遣わされ、彼の権威によって、大使であるかのように、リベカの家の人々に語ります。同じように、聖霊は、父なる神と、主イエスによって遣わされ、その権威と力によって語られます。

2B 御子にある資産

そして、聖書は、御子には御父からのすべてものが任されていることを証ししています。アブラハムのしもべは、アブラハムが多くの金銀を持っており、それをイサクに受け継がせることを説明しました。「24:35-36 【主】は私の主人を大いに祝福されましたので、主人は富んでおります。主は主人に、羊や牛、銀や金、男女の奴隷、らくだやろばをお与えになりました。36 私の主人の妻サラは、年をとってから主人に男の子を産み、主人はこの子に自分の全財産を譲っておられます。」

私たちが伝道をする時、神については何となくわかるが、なぜイエスでないといけないのかが分からない、という方々大勢います。そこには、聖霊ご自身による証しがなんとしてでも必要なのです。主ご自身が、何度となくご自身について証言されました。「ヨハ 3:35 父は御子を愛しておられ、その手にすべてをお与えになった。」この方が、神に選ばれた、すべてのものが任された相続の子息であることが分かれば、そうか、自分はイエスを、受け入れなければいけないとなります。

3B 主への導き

そして、アブラハムのしもべは、説得力をもって、最後に、リベカさんをお嫁にやるかどうか、決断をしていただくようにお願いします。「24:49 それで今、あなたがたが私の主人に恵みとまことを施して下さるのなら、私にそう言ってください。もしそうでなければ、そうでないと私に言ってください。それによって、私は右か左に向かうことになります。」受け入れなければいけないと、強く迫るのではなく、どちらかをはっきりとしてくださいと言っています。これが、決断への促しです。「私は、十分に説明しました。後は、あなたが決めるのです。」ということです。

聖霊は、十字架につけられたキリストをはっきりと示されます。十字架においてのみ、罪が赦されることを教えます。自分の義では、決して神に到達できないことを教えます。だからこそ、天からキリストが降りてこられて、人となり、私たちの罪のために死なれたのです。そのことを、聖霊がはっきりと教えてください。そして、自分たちを苦しめる罪、罪によって自分を支配している悪魔が、十字架によって裁かれることを知らせます。(ヨハネ 16:7-10 参照)

それで、聖霊が、イエスが主であることを導かれるのです。「聖霊によるのでなければ、『イエスは主です』と言うことはできません。(I コリ 14:3)」私たちは、どうかして信じてもらおうと、熱くなって説得しようとして、いいえ、これは聖霊による働きなのです。私たちは、聖霊と確信によって、福音を確かなものとして、はっきりと語ります。そして、信じるのはあなた次第なのだということを、

示します。そこからは、私たちができることは何もなく、聖霊がその人の決断を導かれます。

2A 天からの賜物

1B 財産の一部

このようにして、聖霊がイエスを証しされることが分かりました。次に、しもべがリベカの家にあたえた金銀に注目します。

アブラハムのしもべは、リベカがらくだに水を飲ませた後に、飾り物を彼女につけます。「創24:22-23 らくだが水を飲み終わったとき、その人は、重さ一ベカの金の飾り輪と、彼女の腕のために、重さ十シケルの二つの金の腕輪を取り、23 尋ねた。「あなたは、どなたの娘さんですか。どうか私に言ってください。あなたの父上の家には、私どもが泊めていただける場所があるでしょうか。」そして、リベカが急いで家に戻ると、その飾り物を見て、彼女の兄ラバンが、アブラハムのしもべを家に迎え入れます。ただ事ではないことを、ラバンは感じ取ったのでしょう。

それから、しもべが兄ラバンと父ベトエルが、「主からこのことが出たのだから、リベカをお嫁さんにお連れください」と言いました。それで、しもべは、その場で主に礼拝を献げます。それから、金銀や衣服を与えます。「24:53 そして、このしもべは銀や金の品物や衣装を取り出して、リベカに与えた。また、彼女の兄や母にも貴重な品々を贈った。」これはまさしく、リベカを妻に迎えるための結納金です。

2B 贖いの保障

アブラハムには、多くの財産があると伝えました。そして、それを保障するかのように、その財産のごく一部をリベカの飾りで示し、そして婚姻を承諾した後で、さらに多くのものを与えました。こうやって、必ずやリベカをイサクの妻として、アブラハムの家に連れて行くという保障になりました。

そこで、新約聖書で、聖霊の働きのところ見ますと、非常に重なる部分が出てくるのです。「エペ1:13-14 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。」

ここで使われている「証印」というのは、王や主人の持っている、指輪についている印鑑みたいなものです。ろうのようなものを垂らして、それが完全に固まる前に、それを押して、印鑑のように印をつけるのです。エペソは、当時のローマ世界の貿易中継都市として栄えましたから、貨物の所有者を示すための証印が、ローマに向かって船出する前に押されます。そして、ローマ近郊の港で荷下ろしがされる時に、証印の押されている貨物が自分のものだとして引き取るのです。これが、

聖霊の働きであり、聖霊が与えられているのは、御国が来て、贖いの時が来る時に、「あなたは、わたしのものだ」と、ご自身の所有権を行使されるのです。そのために、聖霊が与えられています。

さらに、「御国を受け継ぐことの保証」と訳されていますが、この保証の直訳は頭金です。これが、アブラハムのしもべが、飾り物を与え、また結納金を渡したのと同じです。アブラハムの全財産の一部ですが、必ず、イサクの妻にするとことを保障するものとなっています。同じように、聖霊によって与えられる喜びや平安は、将来、到来する御国における、絶大な至福の一部なのです。

「ロマ 14:17 なぜなら、神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。」聖霊が、信仰による神の義を与え、それによって神との平和をもたらし、また神にある喜び、救いの喜びを与えますが、それが、神の国の本質です。今、私たちは聖霊がおられることで、これらを楽しんでいます。その喜びは何にも代えがたいですね。ところが、それは、頭金、ごくごく一部だよということです！ やがて来る神の国は、言葉に言い表すことのできない至福なのだということです！そして、神が絶対にそうするという保障、太鼓判なのです。

3A 愛する方

そして、冒頭に読みました本文ですが、「リベカとその侍女たちは立ち上がり、らくだに乗って、その人の後について行った。こうして、しもべはリベカを連れ帰った」ということです。

1B 共にいて助ける方

アブラハムのしもべが、彼女の旅路を導いています。そして、横に来て、励ましたと思います。また、アブラハムがどのような人なのか、神の約束は何なのか、伝えたと思います。その祝福の約束を、イサクが受け継いでいることを伝えたと思います。その目標をはっきりさせて、彼女が心備えができるようにさせたと思います。そばにいて、励ましたのです。

主イエスが、聖霊をどう呼ばれたか思い出せますか？「もうひとりの助け主」ですね。「ヨハ 14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつでも、あなたがたとともにいるようにしてください。」ギリシア語では、パラクレートスです。パラは、そばにという意味です。そしてクレートスは、励ますや慰めるという意味から来ています。そこから、「呼ばれて、そばにいて、助ける者」のような意味になります。まさに、アブラハムのしもべのような働きを、聖霊がしてくださるのです。

2B 御霊と教会

私たちに、聖霊は、後に来られるキリストを示してください。そばにいて、主が共におられることを示し、この信仰の旅路を励まし、力づけてください。何よりも、目標はキリストご自身であり、この方を夫として迎えるために、花嫁としての整えをしてくださるのです。ですから、聖書の終

わり、黙示録の終わりでは、こんな言葉のやり取りがあるのです。「黙示 22:17 御霊と花嫁が言う。「来てください。」「22:20 これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。」

4A 信仰の旅路

1B この世における旅人

リベカが、花婿イサクに会うための旅路を歩んでいるように、私たちは、この世において、天から降りてこられるイエスにお会いする旅路を歩んでいます。「I ペテ 1:17 また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。」今、生きているのは寄留しているのだということです。では、自分の故郷はどこか？パウロが、ピリピ人への手紙で答えていますね。「ピリ 3:20 しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。」

2B 罪や不信仰の誘惑

聖書には、数多く、信仰は、いろいろな障害があるけれども、それでも前に向かって進む競走のようなものとして、多く描いています。「ピリ 3:13-14 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、14 キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるという、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。」主にお会いし、この方から賞をいただくために、キリストご自身を目標としては知っています。

そしてヘブル書にはこうあります。「12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。」罪や重荷が、自分にまとわりついてきます。それを捨てていきましょう、ということです。ヘブル書には、この重荷や罪について、多くの警告を発しています。

時に不信仰に陥ります。また、不信仰になって、罪に惑わされることがあります。「ヘブル 3:12-14 兄弟たち。あなたがたのうちに、不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。13 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。14 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。」

いろいろな、つまずきが、信仰の旅で出てきます。それは、ジョン・バンヤンという17世紀に生きた人が、「天路歷程」に鮮やかに描いたとおりです。絶望という底なし沼があります。また、狭い門があります。イエスだけが、救いの道ですから。また、富や名誉、快樂などの虚栄があります。時

に迫害や殉教もあるのです。そして強い絶望が襲う時があります。そして最後に、死という終わりが近づいています。それら一つ一つに、信仰の励ましを受けて果敢に進んでいく主人公の姿があります。そして最後は、天のシオン、天の都に入ります。

3B 希望と励まし

その中で、信仰が励まされることによって、最後まで確信を持つことができるのです。私たちに互いに励ます仲間が必要です。そして希望をしっかり持つことが必要です。だから、集まる必要があります。思い出してください、主が聖霊について言われた、「助け主」とは、そばにいて励ます、あるいは慰めるという意味です。聖霊がおられる時、人々は互いに励ましています。「ヘブル 10:23-25 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」

リベカの長い旅路を導いた、アブラハムのしもべを見る時、私たちにも聖霊の励ましがあることを思い出しましょう。